

創作  
童話

# 『チユンチユク小雀』

中 村 楠 雄

こんな川が流れてゐますよ。この川のこちら側  
に、竹の一つばい生えたお藪がありました。（略  
畫で示しながら話を進行する）川の向ふ側にもお  
藪がありました。

どちらのお藪の中にも雀さんのお家が澤山たつ  
てゐます。こちらのお藪の中にね、チユン一さん  
チユン吉さん、チユン太郎さんと云ふ、三羽の未  
だ小さい雀さんがありました。三羽共小さい雀さ  
んですから、皆さんが毎日幼稚園へいらつしやる  
様に、やつぱり毎日雀さんの幼稚園へ行つてゐま  
した。

其中でチユン一さんと、チユン吉さんとは、喧

嘩ばかり致します。どちらも大變ないたすら者で  
すから、二羽どうしが喧嘩するばかりでなく、隙  
さへあると、他の雀さん達にも、いたすらをしか  
けては喧嘩を致します。雀さんの先生も、チユン  
一さんと、チユン吉さんを、何べんもお呼びにな  
つて、おしかりになつたり、お訓へになつたりな  
さいますが、どちらもちつともお言附を聞きませ  
ん。

所がチユン太郎さんは、それはくやさしい、  
そして賢い雀さんでありました。ちつとも喧嘩な  
んか致しません。チユン一さんや、チユン吉さん  
が、いたすらをしかけて來ても、少しも相手にな

りません。毎日チユンチユクく鳴きながら皆んなと仲よくお遊びを致して居りました。

或日チユン太郎さんは、幼稚園からお家へ歸つて來ますと、

「チユン太郎さんや、すみませんがね、これを向ひの藪の叔母さんの所へ持つて行つて頂戴」と言つて、お母さんから風呂敷包を渡されました。

チユン太郎さんは

「ハイ」

と、素直にお返事して出かけやうと致しました。するとお母さんは、後から呼びかけて、

「チユン太郎さん、道でね、お友達など、喧嘩をしてはいけませんよ。どんな事を言はれても、手向ひせぬやうね。分つたらサア行つておいで」とおつしやいました。

チユン太郎さんは元氣よく、出かけて來ましたが、ソレ、チユン太郎さんのお家のあるお藪と、

向ひの叔母さんのお家のあるお藪との間には、この川がありませう。(川をつき示す)それでこんな橋がかゝつてゐるのです。(橋を書き添へる)この橋の上を渡つて、今チユン太郎さんは、この向ひ藪の入口の所まで來ました。

さうするとね、藪の入口に小雀さん達は、何羽も遊んで居ります。そしてチユン太郎さんを見る

と、  
「ヤア、チユン太郎さんが來た、チユン太郎さんが來た」

と誰かゞ叫びました。

すると又誰かゞ

「この藪の子でない子には、とほせんぼうをしてやらう」

と申しました。

すると皆んながサアツと、お手々をつないで、こんなに歌ひ出しました。

赤いくほうせんくわ

白いくほうせんくわ

其の中くどつて

通りやんせ

赤い花ちるよ

白い花ちるよ

いやくお前は

通しやせぬ

北原白秋歌  
弘田龍太郎曲

土川五郎氏「遊戯の歌と曲」(18頁)

そしてちつとも通してくれません。チユン太郎

さんは困つてしまひましたが、何べんか

「そんないぢわるをせないで、通して頂載」

と言つてたのみました。

すると其の中で、一番大きい様な雀さんは、

「そんなら僕の胯をおくどり、そしたら通してあ

げやう」

と申します。

チユン太郎さんは、仕方がないから、その云ふ

通りに胯の下を、くどりぬけました。皆んなは一

度にドツと笑ひました。それでもチユン太郎は知

らぬ顔をして、サツサツと叔母さんのお家の方へ

行つてしまひました。

そして歸りには、叔母さんは橋の所まで送つて下

さいました。

それから二三日たつての事です。チユン太郎さ

んのお父さんは、

「チユン太郎、このお手紙を叔母さん所へ、持つ

て行きなさい」

とおつしやいました。

チユン太郎さんの事ですから、

「ハイ」

と御返事をして、お父様から渡された御手紙をし

つかりと持つて、すぐに出かけました。そしてい

つもの橋を渡つて、この向ひの藪の入口へ來かゝ

りました。すると又どうです。この間いぢわるの小雀さん達は、大勢遊んで居るではありませんか  
チュン太郎さんは

「困つたなあ」

と思つたけれども仕方がありません。それでだまつて其處を通りぬけやうと致しました。

其の時誰かゞ

「ヤア、またチュン太郎さんが來たッ」

と叫びました。すると皆んなが口々に

「チュン太郎さんだ、チュン太郎さんだ」

「とほせんばう、とほせんばう」

「勝ちどりのチュン太郎さんだ」

「ウワア、ハ……………」

などい、やかましく笑ひたてました。

そして皆んなが代る／＼邪魔をして、チュン太郎さんに向ふへやつてくれません。けれどもチュン太郎さんは、少しも怒らずにまた

「いぢわるをせないで向ふへやつて頂戴、この手紙早く叔母さん所へお届けせねばならないから」と申しました。さうすると其の中の、また一番大きい様な雀さんは、

「そんなら私のお馬におなり、そしてあすこの太い竹の所まで行つたら、通してあげやう」

と申します。仕方がないから、また其のとほり致しました。

叔母さんにお手紙を渡して、橋の所へ戻つてきました。もういぢわるの子雀さん達は、居ませんでした。そしてね、ヤレ／＼と思ひながら、橋の真中頃まで來ますと、おかしなおぢいさんに出會ひましたよ。真白いおべとを着て、ニコ／＼と笑つてゐます。チュン太郎さんは一寸おじぎをし

ながら、だまつて行き過ぎやうとしますとね、  
「モシ／＼、チュン太郎さん」  
と呼びかけました。

「ハイ、何か御用ですか」

「あなたは此間お母さんのお使ひで、向ひの眞の叔母さん所へ、何か持つて行きましたね」

「ハイ」

「そして、いぢわるの小雀さん達に出會つても、ちつとも喧嘩をしませんでしたね」

「ハイ」

「今日はお父さんのお使ひで、お手紙を持つて行きましたね」

「ハイ」

「そして、今日も其の、いぢわるの小雀さん達に出會つたが、喧嘩をしませんでしたね」

「ハイ」

「幼稚園でも、少しも喧嘩をしませんね」

「ハイ」

「このおぢいさんは、よく知つてゐませう。今日はね、あなたがお友達と少しも喧嘩をせずに、大

變おかしこいから、御褒美を持つて来てあげましたよ。ソーラお手々をお出しなさい」

と言つて、おぢいさんは懐から、ピカツと光るものを取り出しました。何かしらと思ひながらお手々を出して頂戴して見ますと、それはね、金色の小さいお笛でした。チユン太郎さんは、本當に嬉しうございました。

「おぢいさん、ありがたうございます」

と御禮を申上りました。そして向ふへ行かうと致しますと、

「チユン太郎さん、其のお笛はチユン太郎さんにあげますがね、毎日々々吹いてはいけないのです、チユン太郎さんが困つた時、難儀な時にお吹きなさい。さうすると私がすぐ、チユン太郎さんの所へ行つてあげます」

とおぢいさんが、おつしやつたかと思ふと、もうすんすん橋を向ふへ渡つて行きます。

それでチユン太郎さんも橋を渡つて、自分のお家の方へ歸つて參りました。それからチユン太郎さんは、其のお笛を大切に、寝ても起きてても、何時でもポケットに入れて持つて居りました。

或晩の事でした。それは夜の何時頃か分りませんが、チユン太郎さんはバツとお目をあけると、サア大變な事が起つて居ましたよ。チユン太郎さんのお簍も、向ひのお簍のも、何千とも分らぬ位澤山の雀さん達は、一度にバツと飛びたつて、さも恐さうにチユンくくと烈しく鳴きながら、何處かへ逃げて行かうとしてゐる様です。澤山の雀さんは一度に飛びたつて、烈しく鳴いてゐるのですから

「チユンく、ゴゴゴ」

と、まるで雷なりの様な音をたてゝゐます。チユン太郎さんはびつくりして、おうちから飛出しました。そしてチユン太郎さんも逃げやうと致しま

したが、チユン太郎さん達は夜はお目々が見えませんが、それで逃げてよいのか、悪いのか、又どつちへ逃げてよいのか、さつぱり分りません。チユン太郎さんは困つてしまひました。

其時チユン太郎さんは

「ア、さうだツ」

と思ひついたのは、あのおちいさんから頂いたお笛の事でした。それでポケットから其の小さい金色のお笛を出して、

「ピリくピリツ」

と吹きました。

そして吹きやめたら、もうあのおちいさんは、チユン太郎さんの前にビヨコツと、お立ちになつてニコくとお笑ひになつてゐました。

「おちいさん、僕こはいよ」

と申しますと、それでもおちいさんはニコくとお笑ひになりながら

「あゝ、こはいね、でもチユン太郎さん、明日の朝になるまでは此處でちつとして居りなさい。今ね此のお簀の外へも、向ひのお簀の外へも、こはいおぢさんが來てゐるのですよ。其のおぢさんはお簀のまはりへ網を張つて、チユン太郎さん達をとりに來てゐるのです。サア明日の朝までちつとしてゐるのね」

とおつしやつたかと思ふと、もうお姿がなくなつてゐました。

チユン太郎さんは、おぢいさんのおつしやつた通りにちつとして居りました。明日の朝になるとお簀の中は、大變靜かにひつそりとしてゐます。どうしたのかと思ふと、昨晚皆んな大騒ぎをした時、うろたへて大勢網にかゝつて、こはいおぢさんにとつていかれたやうです。

いちわるのチユン一さんも、チユン吉さんも、向ひ簀の小雀さん達も、皆んなとられてしまひま

した。チユン太郎さんはおぢいさんに教へて頂いたので助かりました。それから後もチユン太郎さんは、困つた事が起るとあのおぢいさんに、教へて頂いて大變賢い雀さんになりました。

### 備 考

#### 1、主 眼

友達と少しも争ひなどをせぬ、素直な小雀は、不思議なおぢいさんから小さい笛を貰つた。その笛を吹いてはおぢいさんに來て頂いて、色々教へて貰つてりつばな雀さんになつた。

#### 2、時間十分位。

#### 3、注 意

特別な目的をもつて創作したので、其つもりで改作せられてお用ひ下されば幸甚です。

(大正、一五、一〇、五)